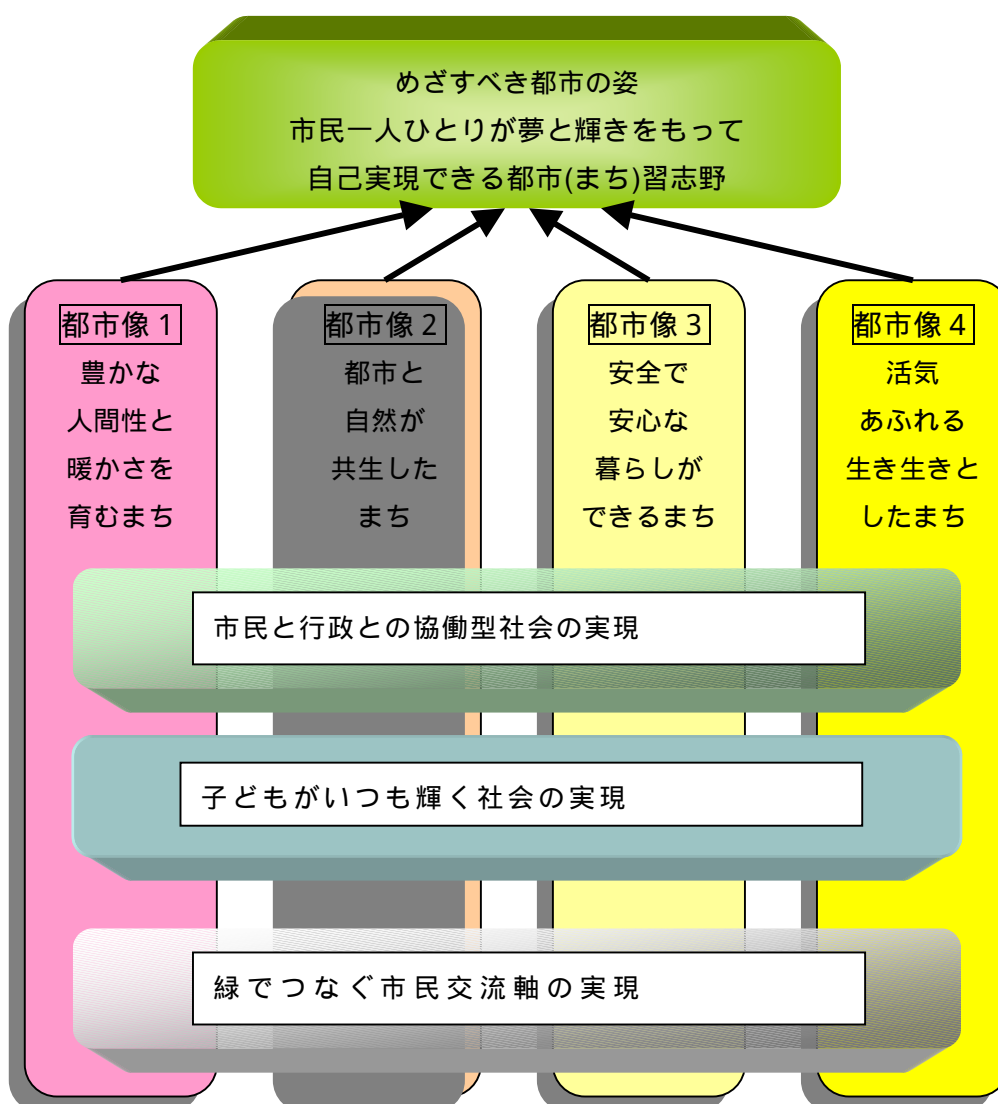


「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市(まち)

習志野」への総合的な取り組み

本計画における、めざすべき都市の姿「市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市(まち) 習志野」を実現するために、4つの都市像を柱とした施策の体系を構築しています。しかし、行政課題には、施策体系や従来型の縦割組織を横断する様々な課題があります。このことから前頁までに提示した施策の体系とは別の角度から、施策の体系の枠組みを超え、さまざまな組織や施策との連携が必要な総合的な取り組みが重要になっています。そこで、全市を挙げての取り組みとして、「市民と行政との協働型社会の実現」、「子どもがいつも輝く社会の実現」、「緑でつなぐ市民交流軸の実現」を以下に掲げます。



【市民と行政との協働型社会の実現】

将来都市像にある市民一人ひとりの自己実現には、市民と行政が共に考え、相互に理解しあうことが必要であり、市民・地域・学校・企業・行政など異なる主体間の交流や、世代や属性を超えた市民相互の交流を通じた協働型社会の構築が極めて重要となります。

また、限られた財源の中で多様化・高度化する住民ニーズに対応するためには、これまでのように行政単独で公共サービスを担っていくことには限界があります。効率的・効果的な施策の展開に向け、市民と行政の役割分担を明確化するとともに、互いが責任をもって対応することが必要となります。

このようなことから「市民と行政との協働型社会の実現」を目指し、協働しやすい環境づくり、政策形成過程における市民の意見の反映などを積極的に推進します。また、異なる主体が連携できるよう積極的な行政情報の提供・公開やそのための情報基盤整備などを通して、行政の透明性を確保するとともに、協働のための基本方針に基づき、そのもとで様々な分野で協働事業を積極的に展開します。

まちづくり会議や自治活動の活性化を図り市政への市民参加の機会を拡充します。また、広報・啓発活動や男女共同参画センターの充実により男女共同参画社会の実現に努めます。

少子高齢化等、市を取り巻く環境が変化する中で、今後ますます厳しさを増すと予想される財政状況を踏まえ、行政評価の活用や後期基本計画、行政改革に関する計画の適正な進行管理を通して、財政運営の健全化、行政サービスの効率化、受益者負担の適正化について、市民との協働で取り組んでいきます。

市民主体による行政サービスの選択・決定や市民と協働した事業展開の前提となる行政情報の共有化や協働しやすい環境づくりに向け、行政内部の情報通信ネットワークの拡充や市民活動インフォメーションルームの機能充実を図り、積極的な情報開示や総合的な市民活動支援を進めます。

地球温暖化防止やまちの美観保全・緑化の取り組みなど環境問題への対応、子育て支援や青少年の健全育成、地域福祉の充実、健康づくりなど、様々な分野において市民・地域・学校・企業と行政による協働型の事業展開を協働のための基本方針に基づき、積極的に推進します。

市と市民等の役割分担モデル

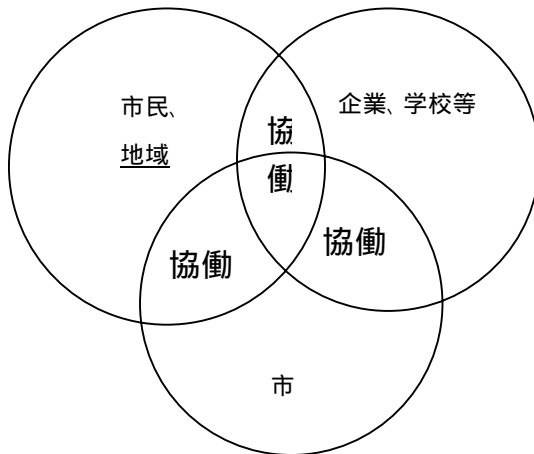
従来	活動領域	公的な領域	私的な領域
	主体 (担い手)	市	市民等



協働型 社会	活動領域	公的な領域	新しい領域	私的な領域
	主体 (担い手)	市	協働	市民等

*新しい領域とは、地域福祉、子育て支援、環境問題への対応をはじめとするあらゆる分野の協働で取り組むべき領域。
*市民等とは、市民、地域、企業、学校等を含む。

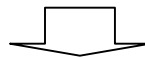
市と市民等の協力関係モデル



*協働とは、市民・地域・学校・企業・市が、互いの特性を認識・尊重し合いながら、対等な立場で共通の目的（事業）を達成するために協力・協調することです。

将来都市像との関係

- ・ 協働しやすい環境づくり
- ・ 市民と行政の役割分担
- ・ 積極的な情報開示
- ・ 協働事業の推進



市民と行政との協働型社会の実現



市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市（まち）習志野

【子どもがいつも輝く社会の実現】

将来都市像にある夢と輝きのあるまちづくりのためには、次代をひらく人づくり、とりわけ健やかで個性豊かな子どもたちを育成することが重要となります。このことから、「子どもがいつも輝く社会の実現」を目指します。子育て世代にとって魅力ある都市（まち）は常に若さと活力を備えた都市（まち）であると考えます。習志野市次世代育成支援対策行動計画に掲げる子どもがたくましく生きていく力を養う「自立力」、家族が支え合い、子育てに喜びを感じる「家庭力」、地域が子どもや家庭をあたたく応援する「地域力」の視点を持ち、「次世代の親の育成」、「子育て・子育て支援体制の整備」、「親と子どもの健康・安全の確保」に積極的に取り組みます。また、男女共同参画社会について、次世代の親となる子どもたちへの各種普及、啓発活動を充実していきます。

子どもが心身ともに健やかに成長し、豊かな心を持った大人に育つよう、「生きる力」を育成する教育の実施、学校などの教育環境の整備をするとともに、家庭や学校、地域社会の十分な連携の下で、家庭や地域の教育力の向上を図ります。また、教職員の指導力向上を図るため、研修等を積極的に実施します。

子どもの健全育成のための良好な環境づくりに取り組むとともに、子どもたちの「生きる力」の基礎となる基本的な生活習慣を育成するため、「早寝早起き朝ごはん」運動や「食育」を進めます。思春期を迎えている子どもには、次世代の親としての意識付けを図ります。

一時保育や放課後児童会など、多様なニーズに応える保育サービスを充実するとともに、家庭や地域の教育力向上を図るため、関係機関が連携し、啓発活動や子育て相談、地域ぐるみの家庭教育支援及び安全を守るシステムの整備に取り組みます。

子育てに関する情報提供の充実や高齢者の知恵・経験を生かす活動などにより、地域全体として子育ての支援に参加できる仕組みを充実させます。そのため、既に幼稚園と保育所、こどもセンターが一体となったこども園が設置されていますが、このこども園の整備を推進するほか、子育て施策を展開する拠点となる施設を新たに整備していきます。

共働き家庭やひとり親家庭が増えており、こうした家庭を職場、さらには地域全体で支援していくほか、男女共同参画社会の実現のためにも、男性の子育て参加を促す各種取り組みを充実させていきます。

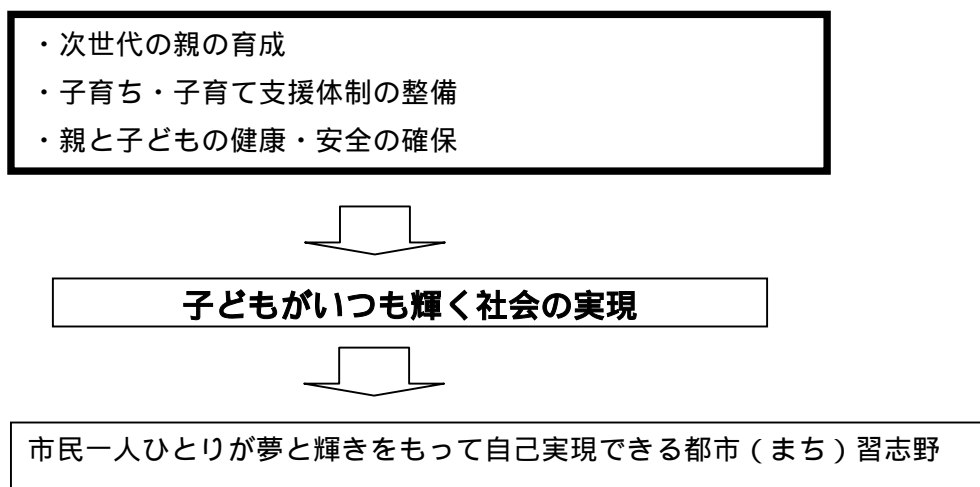
母親の心身の健康を保持し、安心して妊娠、出産、育児ができるような環境を整備するとともに、妊娠期から子育ての時期までの個々の状況に応じた一貫した親子の支援を

充実させ、育児不安の軽減、虐待の予防を推進します。

健やかな生命を育む環境を整えるため、心身ともに健やかで、自分や相手を大切に思う気持ちをもった子どもに育つよう、幼児期・学童期・思春期・青年期と一貫して生と性の尊厳を啓発する活動（教育・相談）に、関係機関と連携を図って取り組んでいきます。

また、保育所・幼稚園・小中学校における通学・通園時の安全確保をはじめ、事故や犯罪の危険から子どもを守るため、交通安全や防犯面で総合的な対策を推進します。

将来都市像との関係



【緑でつなぐ市民交流軸の実現】

本市の最北東部から市のほぼ中央部を縦貫し、海浜部まで続く「ハミングロード」は、他市にない地域の財産であり、やすらぎと憩いの場として多くの市民に愛され、本市の誇りとなっています。本市に点在する緑と水の拠点をつなぐ「ハミングロード」を緑と水の南北軸とし、「香りの道」を緑と水の東西軸として計画していきます。この2つの骨格軸については、都市マスタープランで掲げられ、緑の基本計画で、明確に位置付けています。この2つを都市計画道路と並ぶ都市の骨格軸とした「緑でつなぐ市民交流軸の実現」を目指し、多面的な有効活用や整備を市民との協働で進めます。

「緑や水辺とともに快適に暮らせるまち習志野」の骨格となる「ハミングロード」や「香りの道」を「緑でつなぐ市民交流軸」として位置付け、緑化を推進するほか、文教住宅都市を象徴する学習資源、景観資源、協働・交流資源として活用します。

「ハミングロード」は、市民のやすらぎの場、スポーツ・レクリエーションの場、健康づくりの場、さらには通勤通学・生活道としての機能を高めるため、未整備区間の整備により連続性を確保するほか、歩きやすく優れた歩行空間として再整備していきます。

「香りの道」は東習志野ふれあい広場を起点とし、実花緑地、実籾本郷公園、森林公園、JR 津田沼駅、谷津干潟等を経て、習志野緑地に至るルートで、主要な公園や駅をつなぎます。主に既存道路を活用した街路樹の整備、民有地の緑化、市民による花壇設置等、「緑の香り」を感じるうるおいのある歩行空間として計画を進めていきます。この中で JR 津田沼駅南口は、広大な農地から都市的土地利用への転換を図り、防災機能を有した近隣公園等の都市基盤を整備するなど、都市の顔となるよう新たなまちづくりを進めていきます。

将来都市像との関係

・ハミングロード・香りの道の整備



緑でつなく市民交流軸の実現



市民一人ひとりが夢と輝きをもって自己実現できる都市（まち）習志野



(出典：緑の基本計画)

集中改革プラン (抄)

平成18年3月策定
平成18年10月 財政予測改訂

集中改革プランは、平成17年3月に総務省が発したいわゆる「新地方行革指針」に基づき、全国の地方公共団体に策定することを求めた「行政改革大綱」の具体的な取組みを住民にわかりやすく明示するため策定したものです。

本市では、平成18年度から22年度までを計画期間として、第3次行政改革大綱を見直すと共に、新たに「民間活力導入指針」と「定員適正化計画」を策定し、それらを集約する中でこの集中改革プランを策定してきました。

この後期基本計画を着実に実行していくための財政的前提条件となる集中改革プランに掲げた数値目標と財政予測及び財政計画について、以下に示します。

集中改革プランの数値目標

職員数の削減

人件費の抑制に取り組み、企業局を除く平成22年4月1日の職員数を1,341人以下とします。

【平成19年4月1日現在 1,391人】

債務の削減

平成22年度末の債務残高を776億円以下とします。

【18年度末現在 889億円】

将来債務比率の改善

将来債務比率を特例地方債を除き100%以下とします。

【18年度決算 134.2% (特例地方債を除く)】

経常収支比率の改善

経常収支比率を85%以下とします。

【18年度決算 89.9%】

財 政 予 測 (平成18年10月時点)

(単位：百万円)

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	合 計
歳 入	40,920	46,243	43,876	46,092	42,538	219,669
歳 出	40,920	46,243	43,876	46,092	42,538	219,669
差し引き	0	0	0	0	0	0

主要3事業を含む新たな財政計画

1. 計上した主要事業

JR 津田沼駅南口土地区画整理事業
小中学校大規模改造事業
こども園整備事業

上記3事業以外にハミングロード再整備事業、大久保郵便局跡地事業、コミュニティバス事業、第一中学校用地取得費、なかよし幼稚園跡地関連事業等を計上しました。

2. JR 津田沼駅南口土地区画整理事業について

JR 津田沼駅南口土地区画整理事業費（平成19年度～26年度）

総事業費 158億円

うち習志野市負担分 65億4千万円（22年度まで 52億6千万円）

【財源内訳】

市債 56億7千万円（22年度まで 45億8千万円）

一般財源 8億7千万円（22年度まで 6億8千万円）

なかよし幼稚園跡地不動産売り払い収入 28億4千万円

売却予定面積：7104.07 m² × 400 千円 = 2,841,628 千円

なかよし幼稚園跡地売却代金の充当事業

- | | |
|------------------|--------|
| a) JR 津田沼駅南口開発事業 | 8億7千万円 |
| b) 駐輪場整備工事費 | 7億9千万円 |
| c) 文化ホール駐車場取得費 | 3億4千万円 |
| d) 開発公社償還金 | 6億9千万円 |
| e) 第一中学校用地取得費 | 1億2千万円 |
| f) 事業費充当残 | 3千万円 |

3. 小中学校大規模改造事業について

小中学校大規模改造事業費（平成19年度～22年度） 35億7千万円

【財源内訳】

国庫 4億2千万円

市債 19億7千万円

一般財源 11億8千万円（ポートピア環境整備協力費を充当）

4. こども園整備事業について

こども園整備事業費（平成19年度～22年度） 7億9千万円

【財源内訳】

市債 4億円

一般財源 3億9千万円（東習志野保育所跡地の売払い金2億2千4百万円を充当）

